

By Bethany Cummings



ベサニー・カミングス

1996年、英国ウェールズ生まれ。子どもの頃に見たスタジオジブリ制作のアニメなどをきっかけに日本に興味を持ち、スコットランドのエディンバラ大学で日本語とアジア学を専攻。在学中に交換留学生として岡山大学で10か月間学ぶ。2018年から東京都大田区役所で国際交流員として勤務し、文化や言語の架け橋として、外国人区民をサポートしながら大田区や母国の魅力を紹介している。区のホームページで「ベサニーの大田区絵日記」を公開中。
<https://www.city.ota.tokyo.jp/kokusaitoshi/kouryu/cir.html>

Jenglish and mixing languages a common bilingual habit

Have you ever noticed that people who speak more than one language often mix the languages together?

This **phenomenon** of borrowing sets of vocabulary from one language when speaking another is known as “code-switching.” In the case of Japanese and English, it is usually **referred to as** “Jenglish” or “Japanglish,” and there are many **reasons as to why** this **mashed-together** language is used.

In some cases, it is because certain words or expressions don’t exist in English or **vice versa**, **forcing** the speaker to

make use of the language in which the word does exist.

Other times, it is just because the feeling the Japanese or English word expresses just **“fits better.”** Sometimes, code-switching becomes so natural amongst bilingual speakers when speaking with other bilingual speakers, that they don’t **realize** they are even doing it.

Most of my friends here speak Japanese and English, so the idea of mixing languages doesn’t **come across as** strange. But I do sometimes find it difficult to drop the habit when I visit my family and friends back in the

U.K., where I am **consequently** met with some **puzzled** expressions.

Growing up in Wales, I was **brought up** speaking Welsh English, or “Wenglish.” Even when speaking English, we often use words from the Welsh language in our sentences, such as the word *cwth* (meaning to “cuddle”) or *ych a fi*, which is used to express **disgust** with something.

Language is constantly **evolving**. I wonder how it will change in **decades** or centuries to come.

Jenglish
 (見出しから) 日本語交じりの英語

habit
 (見出しから) 習慣、くせ。後出の drop the habit は「習慣をやめる」

phenomenon
 現象

(he) referred to as
 ～と呼ばれる

as to
 ～については

mashed-together
 ごちゃませの

vice versa
 その逆も同様

force(-ing)
 ～に(to以下を)強要する、余儀なくさせる

make use of
 ～を活用する、利用する

fits better
 よりしっくりくる

realise
 (英国英語つづり)～に気付く、～を自覚する。米 国 英 語 は realize

come across as
 ～と受け止められる、～の印象を与える

consequently
 その結果

puzzled
 戸惑った、当惑した

(he) brought up
 育つ

disgust
 嫌悪感

evolve(-ing)
 進化する、発展する

decade(s)
 10年間



対訳 複数の言語を交ぜて使うことは、バイリンガルのよくある習慣です

複数の言語を話す人が、しばしば異なる言語を交ぜて使うのに気づいたことはありますか？

このように、ある言語を話している最中に、別の言語の単語を部分的に交ぜてしまうことを「コードスイッチング」と言います。日本語と英語の場合は通常「Jenglish」または「Japanglish」と呼ばれますが、言葉をちゃんぽんで使う理由はさまざまです。

例えば、英語または日本語に特定の単語や表現が存在しない場合、話し手は、その単語が存在する言語の方を使わざるを得ない状況に置かれます。

あるいは、日本語または英語のどちらかで表現するほうが単に「しっくりくる」という場合もあります。バイリンガルの人にとって、他のバイリンガルを相手に話していると、コードスイッチングは、ごく自然なため、自分がそうしていることにさえ気付かないこと

があります。

日本にいる私の友だちのほとんどは日本語と英語を話すので、言語を交ぜて話すことに違和感はありません。でも、この習慣をやめるのは実に難しいです。英国に帰国して家族や友人を訪ねると、不思議そうな顔をされることがあります。

ウェールズで育った私はウェールズ英語、いわゆる「Wenglish」を話す環境で成長しました。英語を話すときもよく、「cwth」（抱きしめる）や「ych a fi」（嫌悪感を表す表現）などウェールズ語の言葉をよく使ってしまう。

言葉は常に進化しています。これから数十年後、数百年後にはどのように変わっているのでしょうか。

(訳 田端節子)